



日本一の看板を背負った選手と、交流を深める柔道クラブ

## 全日本学生柔道体重別団体優勝大会 本町で合宿する龍谷大が日本一に

平成17年から本町で合宿を行う、龍谷大学女子柔道部(堀田幸宏監督=京都府)が10月21、22日に兵庫県尼崎市で開かれた第10回全日本学生柔道体重別団体優勝大会で創部初の優勝を果たし、日本一となりました。

一チーム体重別の7人で構成され、大学柔道の団体日本一を決める大会。当日は湯前少年柔道クラブ(藤岡教顕監督)の10人も現地で応援しました。決勝戦では東海大学(神奈川県)と対戦。中堅、副将が勝利し、2対0で優勝しました。

以前同大学でコーチを務めていた藤岡監督は「チーム力での優勝に感動した。子どもたちには、日本一の選手たちとの交流でさらに刺激を受けてほしいと話しました。

## 湯前小6年生がPR大使に 地域の魅力を発信

湯前小学校(菅原浩子校長)の6年生29人が、11月2日に、教育委員会から「湯前町PR大使」として委嘱され、ふるさとをPRするパンフレット作りなどに励んでいます。

児童みずからが町の魅力を調べることで、ふるさとに愛着をもってほしいと教育委員会が企画。「総合的な学習の時間」を使い、「文化財」「イベント」「特産物」「自然」「施設」「お店」のテーマに分かれて活動します。中村和弘教育長が代表の永田悠大さん(同校6年=上里3)に委嘱状を手渡し、6年生全員が「地域の良さや町民の思いをPRできるようみんな協力します」と元気に意気込みを語りました。

学習の成果は来年2月ごろに発表する予定です。



中村教育長に決意を語った児童たち



涙ながらに命の大切さを考える参加者

## 家庭教育講演会 命のありがたみ感じて

本町PTA連絡協議会(岩野浩平会長)の家庭教育講演会が11月13日に農村環境改善センターで開かれ、同PTA会員や児童生徒、教育関係者、地域住民など100人が参加し、命の大切さを学びました。

講演会は、家庭における教育の向上を目的に毎年開催。NPO法人「いのちをつなぐ会」代表の高濱伸一さんが、命の大切さについて講演しました。高濱さんは19歳の子どもを交通事故で亡くした自身の体験から、「一つとしていない命はない」などと訴え、参加者は涙を流して聞き入りました。岩野会長は「改めて命の大切さを感じた。日常の小さな喜びも幸せとして捉えていきたい」と話していました。

## 湯前小5年生稲刈り・脱穀体験 初めてさわる機械に笑顔

湯前小学校5年生の脱穀体験が10月29日に、同校グラウンド近くの田んぼで行われ、児童36人が、脱穀機械を使い、稲から米粒の入っている「もみ」をはがしていました。

児童の食育の一環として行われ、JA青壮年部湯前支部(中神正支部長)が協力。児童は6月に田植えをし、10月22日に稲刈りをしました。

脱穀体験では、足で板をふみ、機械を回転させる「足踏み脱穀機」を使った昔ながらの脱穀と、現代の機械での脱穀の違いを2班に分かれて交代で学びました。児童は青壮年部員の指導を受けて脱穀機の板を踏み、楽しそうに作業しました。収穫したお米は給食などで使われます。



1 足で板を踏んでもみをはがす児童 2 昔ながらの機械を使い、その苦勞を実感 3 稲刈り後にさおに干していた稲の束を運ぶ青壮年部 4 目を輝かせて体験する児童

## 立ち直りを支え続け30年 橋田さんが藍綬褒章を受章

保護司として活動する橋田實子さん(74=下里)が平成30年秋の叙勲で藍綬褒章を受章しました。

産業の振興、社会福祉の増進に貢献した人や保護司、民生児童委員、調停委員などの事務に力を尽くした人が対象。橋田さんは平成元年6月から町内で活動し、長年、犯罪や非行をした人との面接や生活の助言、家族との連絡調整を行い、立ち直りを支え続けています。11月14日に法務省で開かれた伝達式に橋田さんも出席。「苦勞も悲しみもたくさんあったが、母の日に花を持って来てくれたり、日常の報告をしてくれたりするうれしい出来事もあった。改めて大きな仕事をしていると実感している」と話していました。



人の役に立つことを喜びとして活動を続けている橋田さん